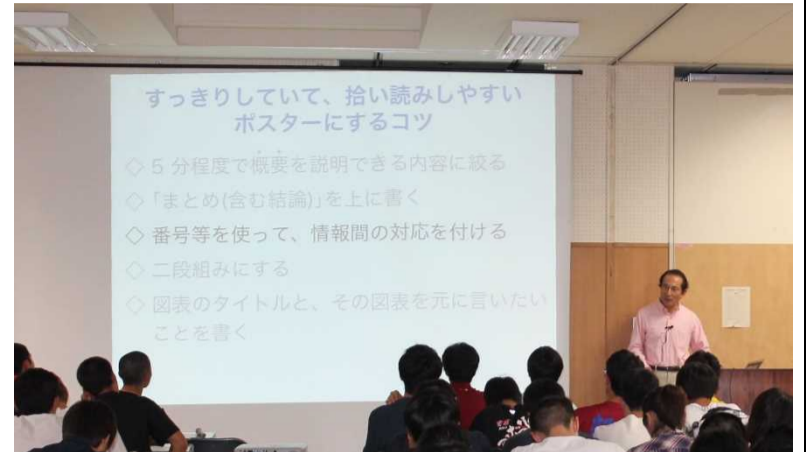


10月3日(火)に行われた第2学年「先端科学技術講演会」と10月5日(木)に行われた「SSH第1回学校公開」の第1学年学術研究Ⅰ『生物実習ポスター発表会』の様子をお伝えします。

● 先端科学技術講演会 「これからポスター発表をする高校生のために」 講師 酒井 聡樹先生

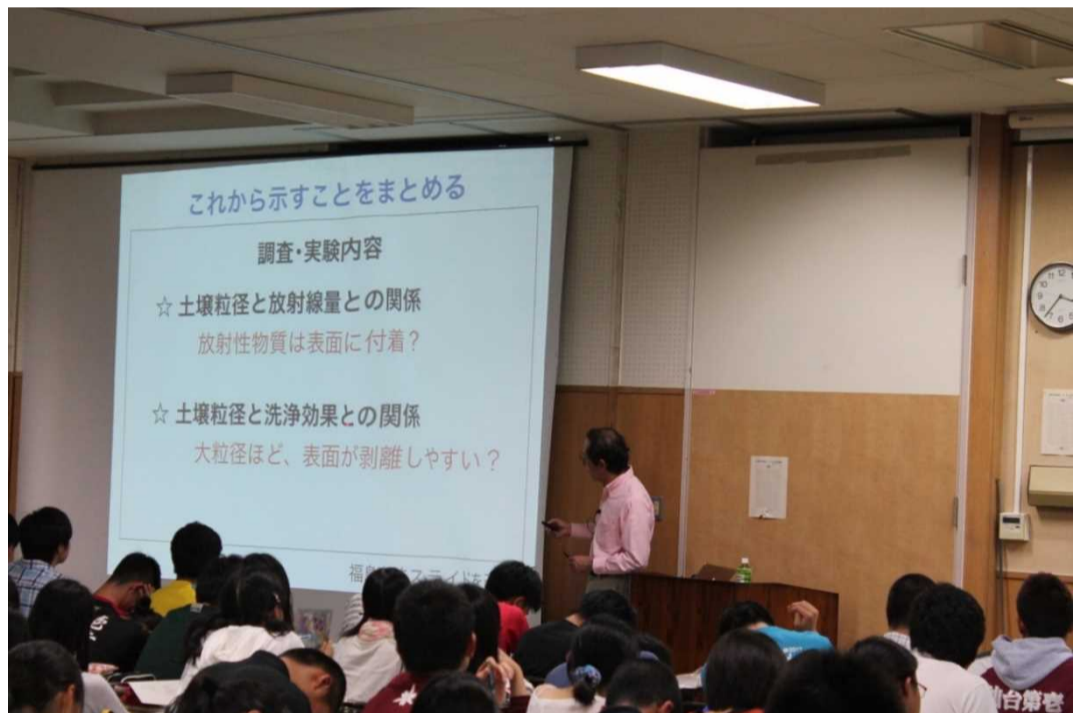
東北大学 生命科学研究科の酒井聡樹先生にお越しいただき、2年生に向けてポスターやスライドでの口頭発表する際のコツなどを解説していただきました。

酒井先生が講演の始めにおっしゃった「聴衆は冷たいものだ」という言葉が生徒にはとても印象深いものだったようで、ほとんどの生徒が感想の冒頭に書いていました。他にも、ポスターの作り方のコツ、聴衆の興味を引くタイトルの特徴などを一言で端的に示していただいたので、印象に残る言葉が多々ありました。



以下、生徒の感想から一部抜粋したものです。

- 自分たちの研究を伝えるということの難しさは、去年の学術研究で分かっていたつもりだったが、今回の講演会でそれを改めて実感した。研究の内容をできるだけ簡潔にして、聴衆をひきつける研究の動機を立て、説得力のある着眼理由を挙げられてはじめて、人に対して研究を伝えられるのだなと思った。
- せっかく研究をしても聴衆に聞いてもらい、興味を持ってもらえなければ、その研究は意味がないと思う。だから今回教えてもらった技術を利用して、一般的な高校生が作るポスターより一段階質の高いポスターを作ろうと思った。
- 序論で「自分が興味を持ったから」としがちであるが、それだと聴衆は興味を持ってくれない。自分本位な伝え方ではいけないと分かった。仮説の時点で差がついているのだなと思った。タイトルも取り組む問題や着眼点をハッキリしないと訳の分からないものになることが比較されることで分かった。
- 例として、1年生の学術が出されていて面白かった。ただ文を並べるのはダメ。だらだらと喋ると聴衆が聞く気が失せる。簡単にまとめてわかりやすく、すっきりと、ポスター作りの概念が変わった。
- 中間発表の前にこの講演を聞きたかった。発表することだけを考えていて聴衆のことを考えていなかった。中間発表のとき実験回数や内容が少なくても興味を引かれたグループがあったが、どうしてやるのかがはっきりしていたからだったと納得した。
- 今回のお話で、発表の際には「聴衆が第一」であることを実感した。自分たちは研究をしているのでわかっているけど、聴衆はわからない。わかりやすく、興味を持たせるような発表をしたいと思う。



- 去年の発表会で分かりにくいと指摘を何人かから受けていたので、こういうところなのだろうと今考えてみると納得できた。今度の一年生の発表会では相手に指摘すると共に自分もどのようなところで失敗しやすいのかを学んでこようと思っている。

生徒はみな集中した面持ちで酒井先生の話聞いていました。特に、この講演の2日後には第一回学校公開が控えていた為、一年生に対して論理的で相手の成長を促すような質疑ができるようにと備えているようでした。

2年生には、これからポスターやスライドを用いた口頭発表の機会が増えてくるので、今回の講演でお話ししていただいた内容を是非とも生かしてもらいたいものです。



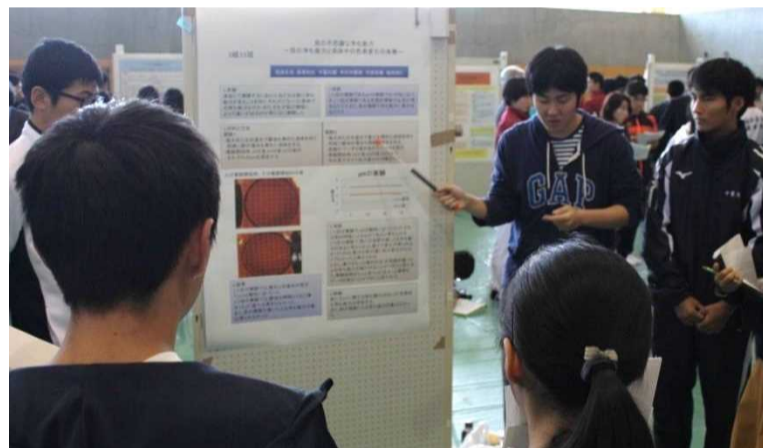
● SSH 第1回学校公開 第1学年 学術研究Ⅰ『生物実習ポスター発表会』

一年生が浅虫の生物実習での研究成果の発表を行いました。どの班も質問が活発に出ていたようで、非常に意義のあるものだと感じました。

以下、生徒の感想から抜粋したものです。

～1年生編～

- 予想していたより質問の数が少なかったが、その少ない質問の中でも答えられないものがあった。ポスターのミスが目立っていたので次回への反省にしたい。次回では細かいところまで手を抜かないようにしたい。
- 自分のクラスではないグループの発表を聞いて、ポスターのレイアウトなど新たな発見があった。自分のグループの足りないところを自覚し、指摘されたので改善したいと思った。発表するときにメモなどを見ないですることはできたが、ポスターを見てしまったりしたので次回はきちんと覚えて発表したい。
- 他メンバーを頼りがちになる自分の無力さ、無能さが露呈し、痛感しました。逆にメンバーの圧倒的なやる気、質問に即座かつ的確に答える頭の回転の速さに舌を巻きました。班としては良い発表になっただろうが、個人としては悔しい結果です。
- 他クラスや他学年の人たちに発表を見てもらうことにより、プレゼンテーション能力が上がるだけでなく、自分たちの未熟さを知ることができた。また、他の人の発表を聞くことによりいい刺激になった。今後の学術の研究内容の向上につなげていきたいと思う。
- 実験が失敗してしまい、結論までの道筋を上手く並べられなかったのが残念でした。失敗することも考えた上で動くことが大切だと感じました。他の班は立派な発表が多くあり、学ぶことがたくさんありました。
- 準備不足で緊張してしまっただが、質問にもしっかり答えることができた。また、たくさんのご指摘をいただいて、来年の学術研究に生かせる経験をする事ができた。これから、ポスターセッションを含め様々な形で発表することになると思うため、今回の様々な失敗をもう一度しないようにしたい。



～2年生編～

- 結果がうまくまとまっていないどころか、しっかりと計測できていない班が多かった。去年と同じ研究をしていて、同じ結果でしたというような発表もあったので、次の学年のSSHの研究では、今までの改善点に則っているような発表をしてほしいと思った。
- 1年生の発表は難しい内容が多かったが、聞いている人に理解してもらおうと頑張っていたと思う。自分も理解しようとする姿勢が強くなったと思う。1年生の発表でヒントを得たので、自分たちの発表に活かしたい。
- 数値化されていなかったり、結論を出すには根拠が足りないところがあった。また、研究対象の設定の仕方にも説得力があまりなかったように感じた。しかし、発表では声を大きく聞き取りやすくするなどの努力は見られた。
- 積極的に聴衆に分かるように説明してくれる人と、原稿を読むだけの人の差が激しかったと思う。自分は質問する事も、良いアドバイスをすることもできなかったが、実際に実験で使った道具をもってきていたり、グラフを工夫したりして、分かってもらおうとしている人もいた。班員の感覚に基づく判断もあったので、客観的に見てもその結果になるような実験の仕方をしてほしいとも思った。
- こちらから1年生に何かを学んでもらうことはあっても、こちらが学ぶことはなかった。質問をしようにも、根底から意味のわからないものがあったので、内容の深い質問をしづらかった。なんとか全ての班に質問が出来たが、質問対策をあまりしていなかったようで、1人の人がその場で考えて返す、ということが多くあった。
- 1年生の発表を聞くという貴重で有意義な時間を過ごせた。やり返されないように自分達の発表の際は質問などさせないくらいに完成させればよいと思う。

1年生の研究発表は、成果がはっきりと見られる班と、うまくまとまらなかった班との差が大きかったように思われ、2年生からは厳しい質問も多く出たようだ。1年生はこれにめげずに、反省を生かして課題研究を始めてもらいたい。また2年生は、キツイしっぺ返しを食らわないように、見事な研究発表を12月のSSH第2回学校公開では見せてやりたいものである。